



まる ○福連携2022

一般社団法人福祉システム北海道

高橋 銀司代表理事

異業種との対話から福祉を探る □連載5(終)□

牧師 杉本 潤さん



すぎもと・じゅん 1987年、函館市生まれ。函館工業高等専門学校で土木を学ぶものの、学生時代に教会の牧師になることを決意する。卒業後はシドニーで1年間、異文化生活を経験。2011年から3年間、札幌市にある北海道聖書学院で聖書を学び、14年に現在のキリスト者学生会(KGK)に就職。日々学生たちと聖書を学び、聖書の大切さを教え活動中。

たかはし・ぎんじ 1987年、小清水町出身。札幌市にある障害福祉事業所に勤めながら、福祉系大学院修士課程を修了。2022年4月から日本医療大総合福祉学部介護福祉マネジメント学科助教としても活動。介護福祉士、社会福祉士。

す。その中で、これからの日本社会には、介護福祉の必要が深くあると感じますね。

●福祉や介護を学ぶ学生さんと直接的に関わっているんですね。

福祉や介護もですが、人と関わる働きは一緒に、対人援助職ですよ。聖書の中に「人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい」(マタイの福音書7章12節)という教えがあります。自分自身が助けられた経験や、人からしてもらったことがないと長続きしないのかな。

●自分がしてもらったことが後に役に立つということですか。

牧師も与えるだけだと枯渇することがあります。お金を得て対価があればいいという人もいますが、単純に人に与え続けるというのは、自分が何か受けていないとできない。牧師も一緒に、聖書を通して神の愛を知り、神の恵みを受けているから人に向かえる。僕は小さい頃から教会に行っていたので、牧師先生や周りの大人達が、自分のためにご飯を作ってくれたり祈ってくれたり、自分の人生の中のいろいろな場面で励ましの言葉を与えてくれたり助けてくれました。今の職場でも先輩方から必要なアドバイスを受けて、失敗談とか経験を聞き学ばせてもらいました。僕は上の世代、周りの人達から良いものを得る環境が与えられてきたのでとても感謝しているし、それは必要な時間だったと思っています。そして聖書を通して、神が自分に何をしてくれたかを知っていく中でも大きな励ましを得てきました。

●逆に介護・福祉職員の人が活用できそうなスキルなどはありますか？

貧しい人や病んでいる人をないがしろにしてはならないという基本的な教えが、聖書の根底には流れている。それは神が一人ひとりを創られたし尊く見ておられるから。聖書の最初の方には「人がひとりであるのは良くない」(創世記2章18節)と語られている。そこに立って福祉介護を見ていく時、相手の方の見方とか関わり方は全然変わってくると思います。

●ちょうど12月ということで、クリスマスやサンタクロースについて教えてください。

クリスマスはイエスキリストの誕生を祝うというのが本当の意味です。クリスマスという言葉も英語でキリストと礼拝を表す言葉が合わさった言葉で、キリストを礼拝するという意味です。私達の中にある罪、そしてそれによって人は神の裁きを受けるという強烈なメッセージが聖書の中にあるのですが、イエスキリストはその裁きから救うために生まれ、私たちの罪のために十字架に掛かって死ぬ。そのイエスを自分の主と信じる者は罪が赦(ゆる)されるということが教会で言われる救いです。イエスキリストの誕生も、神が私たちのことを本当に心に想(おも)っているというメッセージでもある。教会ではこのクリスマスを喜び祝い、自分たちの救いを確認する日としています。

サンタクロースはもともとセントニコラス、セントは聖人の意味ですが、セントニコラスが神から受けた恵みを分かち合うためにプレゼントとして届ける働きをしたことが由来と聞きますね。

■あとがき：高橋銀司

今年で3年目の「○(まる)福連携」にお付き合いいただき、誠にありがとうございます。毎年、異業種からの福祉を勉強できることは私にとって非常に有意義な時間となっております。今後も社会全体にある福祉を探りに異業種の方々と連携(対話)を通して勉強していきたいと思っております。

●牧師の仕事について教えてください。

牧師はプロテスタント教会の日曜日礼拝で聖書を教える「説教」をしたり、教会に集まる一人ひとりのケア、それぞれの信仰や人生の悩みを聞いてアドバイスしたり、働きは多岐にわたっています。教会や牧師によっては、子供食堂や介護のデイケア、フリースクールを開いたりなど具体的な生活のサポートをしているところもあります。

●牧師になろうと思ったきっかけはなんですか。

牧師になろうと思ったのは学生時代です。当時公務員を目指して勉強していたのですが、進路のことで悩んでいて。将来の人生設計をした時に、公務員として働いて、日曜日は教会に行き、結婚して子供が生まれて、老後を迎えて死んでいくというのを漠然と想像したんですね。そしたら急に虚(むな)しさを感じたのと共に何のために生きていくのかという問いにぶつかってしまい。そこで改めて聖書を読みながら、神と共に生きる中で人は生きる目的を見出すということを知り、その生き方を伝える働きをしたいと思いました。

●なにか具体的なエピソードがあったのですか？

夏休みに教会のキャンプなどの集まりがあったのです。その中で聖書の「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」(マタイの福音書4章4節)という一節が、何度も立て続けに自分の中に響いてきて、自分は神の言葉を聞いて神の言葉によって生きるのだなと思ったのが具体的な変化でした。

●牧師の仕事が続けてきて、大切にしていることはなんですか。

いろいろな学生達と関わる働きをしていますが、気を付けていることは一方的に何かを教えるのは極力控えるということですね。学生達に自分の頭で考えて選び取ること、決断すること、その生き方を身に付けてもらいたい。例えば聖書のことを教えるのですが、人から言われたから信じるというのではなく、従って生きるかどうか自分で聖書と向き合い、考えて選び取ってもらいたいので、自分の考えを押し付けないように気を付けています。

中には、教えられたことをそのままインプットして、そのまま暗記してそのままアウトプットする学生達も実際います。何も考えずにその場しのぎの生き方になることもあるので、それは将来的に危険だと感じます。世の中にあるさまざまなことに対して、それが本当に正しいかどうかを考え立ち止まり、自分が見聞きしたことを整理する力を養ってもらいたい。

周りに流されやすい生き方になるのは、自分の経験してきたところなので。一方的に教えるだけじゃダメだと思っています。

●もらったものを丸飲みするのではなく、咀嚼(そしゃく)して自分の舌で確かめて判断していくことは自分しかできないことですよ。これまでの失敗談を教えてください。

自分と学生との経験や年齢の差って15年ぐらい離れているので、こちらが持っている経験や価値観をすぐ言いたくなる。学生達の話合いを見ていると、遅々として進まないミーティングでは口出ししたくなって。例えば1年間の目標を決める、コロナ禍での活動は集まるかどうかとか、いろいろな決断を学生達がするときに、いやこれってこうじゃない？ と言ってしまい、学生達も僕が言ったからと流され引っ張られる。

その時に話すぎたなど。彼らで考えて決断できたのではと反省します。失敗して何を学ぶかまでフォローするのが、大事だと思っていますが、時々失敗する時間や経験をフォローするのがしんどくなる時はストップさせてしまう、という誘惑に駆られますね。

あと恥ずかしい話ですが、ある日曜日の教会の説教で1回ダブルブッキングしてしまったことがあって。ある教会の牧師から確認の連絡をいただいたのですが、僕はその日、別の教会で話す予定があって、おかしいと思い自分のスケジュール帳を漁(あさ)っていったら半年くらい前に古いスケジュール帳に入っていた予定をすっかり移し忘れていて。あれは本当に焦りましたね。

●牧師をしていて福祉や介護を感じる時はありますか？

実際に福祉や介護の領域で働こうと学んでいる学生達がいるので、間接的に介護の世界や福祉の現場に触れます。彼らの実習での話を聞きながら現場を見ることの貴重さは学んでいます。



「○福連携プラス」YouTube配信中

高橋代表理事の連載する「○福連携」で過去に紹介した、異業種との対話を視聴できる動画チャンネル「○福連携プラス」がYouTubeで配信中。紙面に掲載し切れなかった対話の様子を15~20分前後にまとめている。視聴QRコードはコチラ。杉本さんの動画は10日から配信予定。

□一般社団法人福祉システム北海道

▶ホームページ <https://fukushi-sh.net/> ▶問い合わせ先 info@fukushi-sh.net

